

ほっと通信



長かった2学期も終わり、冷たい空気につばきが映える季節となりました。先生方におかれましてはいかがお過ごしでしょうか。

特別支援センターには、2学期までに延べ292件の巡回の依頼をいただき、実施いたしました。3学期も引き続きどうぞよろしくお願いたします。

今号では、市内の特別支援教育の取り組みとして、長池小学校での工夫や活動をご紹介します。

<長池小学校> 特別支援教育の取り組み

本校の「特別支援」の考え方は“困っている・サポートが必要という子ども・保護者・教師に対して、チームで取り組んでいこう”というものです。嘱託教員、コーディネーター、養護教諭、特別支援サポーター、メンタルサポーター、学生ボランティアなど、さまざまな立場の方々によるチームが生まれ、ニーズに対して支援を展開します。

具体的な取り組みについてあげてみましょう。

前年3学期から、新年度の準備として子どもたちの情報を集めます。配慮を要する児童の報告会Ⅱが2月(5月に1回目)に、新1年生については、幼・保と連携して資料を作成します。新年度スタート前に対応を検討し、大体の学校態勢を立てます。外部からの支援もできるだけ継続し、新年度の計画に組み入れます。特に1年生については、入学式前に必要な親と面談を持ち、対策を相談します。ここで「就学支援シート」がとても有効なツールになります。入学式から5月いっぱいを入門期と位置づけ、各クラスにサポートを配置し、子どもたちに集団のルールを身につけさせます。他学年では、緊急対応と学習支援について、ニーズを把握し、対応を検討します。その後も、コーディネーターが中心となり、校内委員会・学年会で話し合いながら、必要に応じて、面談やケース会議を開きます。

ケースを検討するときに、外部の関係機関も強い味方です。家庭支援センター、近隣の大学教育相談室、CEセンター。その中でも、特別支援センターは、こちらの要請に対してフットワーク軽く来校していただき、支援していただいています。来校回数が増えるほど、学校の状況を理解していただき、密接な関係になってきていると思います。わかりやすい言葉で、適切な理解やアイデア、見通しをもてるアドバイスをいただく度に、“専門家との連携”が有効だと感じています。チームをより良く機能させるために、今後も関係を深めていきたいと思っています。

特別支援教育コーディネーター 寶田 邦子 先生

キーワード

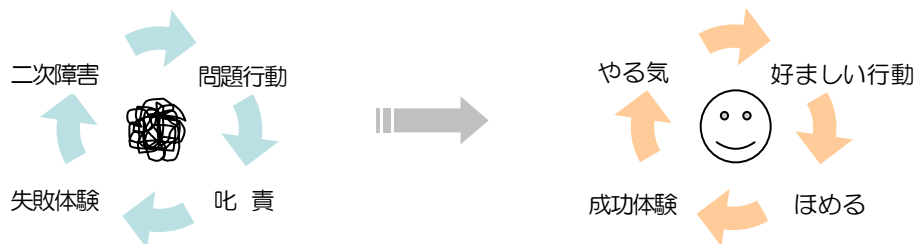
「二次障害」



発達障害の子どもたちで、障害自体による問題のほかに、環境や人とのかかわりの中で生じてくる問題を二次障害といいます。例えば、障害があるためにできないことを「怠けている」「わがまま」とみなされたり、しつけや本人の性格の問題と誤解され叱責や非難、いじめを受けたりすること、適切な理解と支援を受けられずに失敗が続くこと等も二次障害の要因となることが少なくありません。

二次障害は①反抗や挑発、緘黙、不登校、食異常などの行動面②不安や抑うつ、対人恐怖、被害妄想などの精神面③腹痛や頭痛、嘔吐、遺尿、チックなどの身体面など、様々な症状を呈します。それを防ぐためにも、周囲からの適切な理解と対応が不可欠です。

二次障害の予防に向けて、子どもたちの健全な発達を支えられるよう、心がけたいですね。



ぽけっと

『先生、できたよ!』



自信をもって学習や活動に参加できるよう、子どもが「できた!」という経験をたくさん積めるようにしたいですね。

そこで、今回は指導する中で工夫していただく際のポイントをいくつかご紹介したいと思います。

- ① **ひとつずつ**…一度にたくさんの指示や情報を出すと混乱 → 一つひとつ提示しクリアさせる。
- ② **短く、具体的に**…そのとき必要な情報だけを、短く簡潔に、具体的に伝える。
- ③ **視覚的な手がかり**…簡潔な説明+パッと見てわかる文字やイラストを添えると理解しやすい。
- ④ **肯定的な表現で**…「××しちゃダメ」「△△しないで」→「〇〇しよう」「こうするとできるよ」
- ⑤ **予定を伝える**…課題や行動の始まりや終わり、予定や流れを事前に伝えると見通しがたち安心。



ちょっとした工夫で子どもの笑顔がパッと咲くとうれしいですね。

(文責：心理士 渡瀬 恵)

巡回相談のご案内

特別支援センターの心理士・研究主事などが、授業観察、発達検査及び聞き取りなどを通して発達の特性を見立て、先生方と一緒に校内での支援について考えていきます。

まずは電話でご相談ください。特別支援学校のコーディネーターとも連携しています。

電話予約→情報共有→日程調整→巡回訪問→(状況により継続相談)

特別支援センター： 664-1615 (直通)

